

志木の森学園 志木第二中学校だより



本気でするから

校長 石井 都

新年度を迎え、早3か月目となりました。今年は、すでに真夏日を観測し、季節外れの暑さを感じる今日この頃です。最高気温が40℃以上の日を指す新しい気象用語「酷暑日」が、今年4月に発表されるなど、今年の夏も全国的に平均を上回る厳しい猛暑となる見込みのようです。

さて、校庭のコンディションにより延期となった体育祭でしたが、『志木二中ガチンコ最後の体育祭全力でかけぬけろ』のとおり、学年種目やリレーなど、全力で頑張る子供たちの姿から、たくさんの感動が生まれました。その姿から、体育祭当日はもちろんのこと、練習も含めて「本気」で取り組んできたことがよくわかります。実施に際し、保護者の皆様には、ご理解、ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

ところで、正範語録（はいはんごろく…武田信玄の言葉という説もありますが出所不明です）というものがありますが、その中に、

「本気でするから大抵のことはできる。」

「本気でするから何でも面白い。」

「本気でしているから誰かが助けてくれる。」

という一説があります。年度当初に、子供たちに「がんばることは かっこいい」という話をしましたが、本気の行いは、誰かの心に届くものだと思えます。また、「実力の差は努力の差」（能力の違いはどれだけ努力したかによる）、「真剣だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言い訳ばかり。」など、人生における心構えとして広く引用される名言もあります。なるほど…と思わず納得してまいります。

なんでもいいからさ 本気でやってごらん
本気でやれば たのしいから
本気でやれば つかれないから
つかれても さわやかだから

（相田 みつを）



「本気」という言葉をキーワードにした時、ふと思い出したのが、昨年の夏に行われた第33回オリンピック競技大会でのことです。開催地パリにおいて、32競技329種目に207の国と地域等から、1万500人余りの選手がエントリーし、様々な競技において熱戦が繰り広げられていました。対フランス戦、男子バスケットボールの試合を見ていたときでした。190cmを超える長身選手が、ドリブルでボールを運び、ダンクシュートをきめる中、コート縦横無尽に走り回る選手に目を奪われました。コートを一瞬で走り抜けるスピード、するどいパス、勝負強いスリーポイントシュート、自分より20cm以上高い相手を翻弄するディフェンス、コートで発揮されるプレーには、気迫があふれていました。格上の対戦相手にさえ、勝つことへの強い意志を貫こうとしているその選手は、身長172cm、2024年NBA新人王フランス代表のビクター・ウェンバンヤマ選手とは50cmの身長差がある、河村勇輝選手でした。今でこそ、稀有な力を備えたアスリートですが、小学生の時は、身長が低く、平凡な自分にバスケットボール選手としての未来はないと考え、現実的な目標に集中していたそうです。中学生になってもその考えは変わらず、ただ、全力で部活動に打ち込み、努力を重ね、チームのキャプテンとなつてからは、強いチームをつくるために、リーダーシップを発揮していたそうです。

「本気でするから何でも面白い」「本気でやればたのしいから」偉人が残した言葉は、本気で何かに打ち込むことへの尊さを私たちに伝えているのではないのでしょうか。